



みわを元気に

三和地域協議会ニュース 第2号 平成27年6月16日発行

三和地域の人口・世帯数
男 1,769人
女 1,861人
合計 3,630人
世帯数 1,710世帯
(平成27年5月末 現在)

発行：三和地域協議会
編集：広報編集委員会

部会活動がスタートしました！ 、活動報告 こんなこと、話し合ってます！

三和地域協議会の最も大切な事業である三つの部会（地域活力、生活基盤、定住促進・情報発信）の活動が始まりました。

それぞれの部会では、この一年間の協議内容や方向性について、熱心な議論が交わされています。各部会の活動状況をお知らせします。

地域活力部会

副部会長 藤田 まどか

生活基盤部会

部会長 後藤 定司

地域活力部会の藤田まどかです。四月の協議会設立以降、月二回のペースで部会を開き、三和町の町民は何を望んでいるんやろう、何をすれば元気が出るんやろうか、むかしはこんなことしよったなあ、こんなことしたら楽しいんちがうか、と色々な意見を出し合ってきました。

五月十一日に第一回、六月二日に二回目の会合を持ち、市の職員から市バスの運行など公共交通について説明も受けました。部会として地域のために何が出来るか。まだまだ手さぐり状態ですが、まずは地域の課題をよく把握し、その中から、有効な手立てを見つきたいと考えています。

みなさまとしっかり繋がりがながらより充実したものにしていくことも、大きな課題ではあります。もともと身近にもっと簡単に、今私たちにできることは何だろうか、と意見を交わし実行できるように話し合いを進めています。

地域のみなさまの、お気持ちやご提案をお聞かせいただきながら、三和町をもっと元気にしていきたいと思っています。

ぜひおこしく下さい！

みわを元気にして維持継続させるには？
福知山市内で活躍する女性みなさんに語り合ってください、これからのまちづくりの方向をさぐります。

みわまちづくりシンポジウム

女性が語る
～地域の魅力・
「くらし」の未来～

◇日時◇ 平成27年6月29日（月）

開場：午後7:00

開会：午後7:30

◇会場◇ 三和荘多目的ホール

公共交通の在り方は当部会の大きなテーマです。鉄道のない三和にとって自家用車を除くと、輸送手段はバス頼みになります。市の調べでは、平成二十六年の市バスの乗車人員は三和約2万5千人、夜久野約1万人、大江約7千8百人です。高齢化が一段と進む中で、マイカーに乗れないお年寄りは増えてきます。高小生の市中心部までの通学も自転車ではしんどい面があります。

市バス、JRバスともガラ状態が目立ちますが、無くなつては、お年寄りの買い物や病院通い、高校生の通学などに支障が出ます。公共交通を担うバスをいかに活用し、確保していくか。現在の利用状況を分析し、運行予算とも見合ったものにしなないと先は見通せません。一方で、バスに乗りたくても家からバス停までが遠く、利用できないお年寄りも。自家用車による福祉あるいは過疎地有償運送も検討する必要があります。

部会では、利便性の面から、市バスの運行をもっとターゲットを絞った形態にするこや、千束を市バスの拠点駅とし、JRバスなどをつないで福知山市民病院や大型店などにも行けるような「モデルバス」を走らせては、との提案もありました。また、川合小の児童が利用するスクールバスの時間と場所を調整し、中

学生や大人も乗れるように出来ないか、との意見も。さらに、以前から指摘のある、三和の高校生が福知山市中心部の高校に通うのに、市バスでいったん綾部市に出てから鉄路で学校に向かうという、交通対策の弱さ、不便さを象徴するような話も出ていました。市や市教委、JRバスなど近く、一堂に会して話し合う場をと考えています。

地域交通の充実に加え、部会の今後の取り組みでは▽高齢者に大型店での買い物などを楽しんでもらう「買い物バス」の運行を、自治会などから要望があれば連携して実施する▽消防団などに協力し、救急救命士の養成に取り組む、など検討しています。

暮らしやすい地域づくりへ、皆さんの知恵とご協力を賜りたく思います。

定住促進情報発信部会

部会長 和田 憲幸

三和地域協議会が産声をあげてから約二カ月。私たちが暮らす福知山市と、お隣の綾部市の「定住促進」の現状を知るため両市の担当部署を訪れ、今日までの施策や実績などについてうかがった。その結果、正直言って「こんなにも違うのか」と驚かされたことがいくつかあった。

一つ目は、移住者の多くが「定年退職後の方」という福知山に対して、綾部はトップの三〇～三九歳が全体の三割近くを占める。次いで、〇～九歳の約二割と

続き、子育て世代の家族の移住が際立っている。ちなみに六〇歳以上は、〇～九歳の二割弱にも及ばない。

二つ目。福知山では移住者の自治会加入は自由だが、綾部では自治会への加入を条件にしている。その代わりの側面もあるかもしれないが、移住が決まれば市職員が移住者と共に地区内を回って地域の人たちに紹介している。さらに、年一回、市職員が移住者宅を訪問して「何かお困りのことはありませんか」と声掛けしているが、最近では「何もありません」との答えが返ってくるばかりで、様子見で手控えているようだ。

三つ目は、市の空き家バンク制度を利用して売買・賃貸借が成立した件数。平成二十年にスタートした福知山は平成二十六年末現在で合計約二十五件、綾部市は平成二十六年一月現在、百十七件、二百七十一人で、全国三位という。

部会では、部会委員の皆さんから「地域内のペンションの中には手放したい所有者もいるので斡旋してみたい」と、「定住を促進するには三和町に付加価値をつけないと」、「住民の意識改革や住んでいる地域を好きになることから始めないと何も始まらないのでは」、「まずは楽しく暮らせることが重要。地元民を大切に、人が育つ場になれば」など、さまざまな意見や提言があった。こうした議論を重ねながら、三和地域協議会としての「定住促進」に向けた道を切り開いていきたい、と思う。

どうせやるなら・・・ 山口 一郎



最初は、Mさんからの電話。「仕事の帰りちょっと支所によって」と

それが運のつきでした。本協議会の前身の「まちづくり会議」に参加することになりました。その後、協議会の役員選任会議も、本当は私の担当でなかったのに・・・。それから、あつという間に馴食ですって。まあ、でも周りの人たちがしっかりしておられるようなので、私はとりあえずいるだけでもいいかと引き受けました。

両親の育て方が良かったのか、名前に「一郎」の字をつけてもらったのが良かったのか、生まれ育った三和の地で自分なりに好きなようにしていたら、こんなところ？にいることになってしまいました。そうそう、「コトおこし」の関係も同じように呼び出され、気が付いたらこの協議会につながっていったように思います。生来の前向きな性格もあると思いますが、どうせやるなら楽しみながらやろうと考え、色々なことに首を突っ込んでいます。それもこれも結局は自分のため。この協議会も同じだと思います。この地域に暮らす一人ひとりが自分のためにこの協議会を守り育てていけば、もっと住みよい「みわ」ができるのかなと思います。

昨年消防団を退団しました。「消防が終わってさみしいやろ？」と多くの人に言われますが、そんなことはありません。用事が多く大変ですが、それも楽しみの一つとして毎日バタバタと過ごしています。

♪ 春 みわでさまざまな イベントが開催されました♪

4/29・「友渕」同士で農村都市交流会

5/23・経ヶ端城址 第3回 野点まつり



みんなで だけのこ掘り

この交流会は、三和町と大
阪市都島区で偶然にも「友渕」
という地名同士ということ
が縁になって有志で18年前か
ら交流が始まり、現在では参
加人数も増えて、地域活性化
を図る役割を担っています。
すこやか友渕交流会会長の
高根利数さんは「体験を通し
て農山村への興味を持って
もらい、新規就農者や移住者
を増やせば」と話されます。

三和町友渕で先月29日、すこ
やか友渕交流会と大阪市都島区友渕
連合振興町の第12回農村都市交
流会が開催され、三和町友渕から13
名、大阪の友渕から43名、大人31名、
子ども12名が参加した。筍掘り体
験や、椎茸の植菌作業体験、懇親屋
舎があり、懇親会では、地域でと
れたお米のおにぎり、山菜の天ぷ
らや、鹿肉・猪肉などが、すこやか
友渕交流会の人々によってふる
まわれ、食事を楽しみながら
親睦を深めた。



頂上てのお茶会の様子

城跡に向かう道端には地元
産の野菜や陶器、アクセサリ、
スイーツなどの出店もあり足
を止める人らでにぎわった。
この日は、滋賀県から約10人
が来援し、琵琶湖岸のヨシで
作ったヨシ笛で「ふるさと」春
の小川」など8曲を演奏、涼
やかな音色に訪れた人が聞
き入っていた。

地域の活性化につなげよう。里山の風景に心なごませながら、
三和町上川合の経ヶ端城址公園 野外でのお点前を楽しんだ。
「第3回野点まつり」が先月23
日に開かれた。地元の人や近くの
古民家の宿「ふるま家」沢田さん
（さん経営）に宿泊中の外国人3
人ら計約100人が田植えの終わった
れは」と計画、台頭の古民家で
茶席も楽しめる楽しめる緑水
庵を営む菊田宗延さんの賛同
を得て2年前から始めた。
この日は、滋賀県から約10人
が来援し、琵琶湖岸のヨシで
作ったヨシ笛で「ふるさと」春
の小川」など8曲を演奏、涼
やかな音色に訪れた人が聞
き入っていた。



大原の里そばでお田植え体験

5月31日に大原で「京都府景観資
産うぶやの里大原 都市農村交流
体験ツアー」が開催されました。当
日は、地域の方のほかに、京都市内
からボーイスカウト約40名（保護者
含）も参加した。「お田植え体験」で
は、大原の産屋そばの水田で手植え
をし、「さつまいも苗植え」では、育っ
たさつまいもの収穫祭を、秋に予定
している。「川の生き物・地質の観察」
では、福知山市自然科学協力委員
会の方を講師にむかえ、川合川に生
息する生き物、あかひつや、やまも
とかんすけ等珍しい魚の生態など
を教えてもらい、子どもたちはとて
も興味深く話を聞いていました。
美しき命の源流うぶやの里大原の
自然を通して、さまざまな体験をし、
地域の人たちとも交流でき、楽しい
一日となった。

5/31
うぶやの里大原
都市と農村交流ツアー



自家製天然酵母を使ったパンと
美穂さん

自家製の天然酵母を使った
パンで、主に京都や大阪、東
京のカフェ店などに発送して
いる。住み始めて2年。親し
くなった菟原下や隣の篠山市
桑原の人たちの要望も受け、
土曜日の正午から午後6時に
限り店を開放することに。健
さんの誕生日に当たる6月6
日には、お披露目の会を開き、
近所の住民ら百人を超える人
たちが集った。
問い合わせは「カルナー」
電話（58）3132。

OPENしました！

兵庫県の鹿倉
山のふもとにパン
工房が目見えし
た。三和町菟原下
の緑に包まれた古
民家を活用して開
いた「天然酵母パ
ン K A R U N A
（カルナー）」。
土曜日限定で店頭
販売され、店先や
屋内でパンとコー
ヒーが楽しめる。
店を開いたのは北海道から
移住した宮本健さん（43）と
美穂さん（42）夫婦。パン工
房とアトリエを開ける家を求
め、知人の縁もあって、この
地を選んだ。東日本大震災で
生き方を揺さぶられたのも転
機になったという。

編集後記

頂戴しています。
これからもお
気軽にお立ち寄
りください。

三和地域協議会がスタートし
て2カ月と少し。
早いもので暦はもう6月です。
4月の発足以来、3つの部会
（地域活力部会、生活基盤部会、
定住促進・情報発信部会）ごと
に、さまざまな角度から意見や
知恵を持ち寄り、地域のみなさ
んと「みわを元気に」するため
に少しずつ動きだしています。
事務所へも開設以来、たくさ
んの地域の方々にお越しいた
だき、いろんなお
声やご意見を、
頂戴しています。
これからもお
気軽にお立ち寄
りください。

三和ふれあいフェスティバル

健康・スポーツ交流の部 10月4日（日）
フェスティバルの部 11月7日（土）～8日（日）

6月5日に三和ふれあいフェスティバル実行委員会が開かれ 今年の開催日が決定しまし
た。なお、今年度から実行委員会事務局は三和地域協議会となりました。
詳しい内容等は、またお知らせいたします。